

報道関係者各位

(本資料は、2025 年 11 月 18 日に米国で発表されたプレスリリースの抄訳です)

2025 年 11 月 27 日

ボストン コンサルティング グループ

【参考資料】

AI エージェントを導入している企業は 35%、生成 AI の導入スピードを上回る ～BCG、MIT スローン・マネジメント・レビュー誌共同調査

企業は「人材管理」と「資産管理」の 2 つの目線からの管理が必要に

ボストン発、2025 年 11 月 18 日 —— 経営コンサルティングファームのボストン コンサルティング グループ (以下、BCG) は、MIT スローン・マネジメント・レビュー誌 (以下、MIT SMR) と共同で、AI によるビジネスへの影響に関するレポート「[The Emerging Agentic Enterprise: How Leaders Must Navigate a New Age of AI](#)」(以下、レポート) を発表しました。MIT SMR と BCG は AI とビジネス戦略に関するグローバル調査を毎年実施しています。9 回目となる今回は、世界 116 カ国 21 業界の企業・組織に属する 2,102 名から回答を得ました。

35%の企業がすでに AI エージェントを導入、44%が近く導入を計画している

AI エージェントは、従来型 AI や生成 AI を上回るスピードで企業への導入が進んでいます。調査によると、従来型 AI の導入率は過去 8 年間で 72%、生成 AI は 3 年で 70% に達した一方、AI エージェントは登場からわずか 2 年ですでに 35% の企業が導入を進めており、44% の企業が近く導入を計画していることがわかりました (図表 1)。

図表1 企業の35%がAIエージェントを導入しており、44%が近く導入を予定している



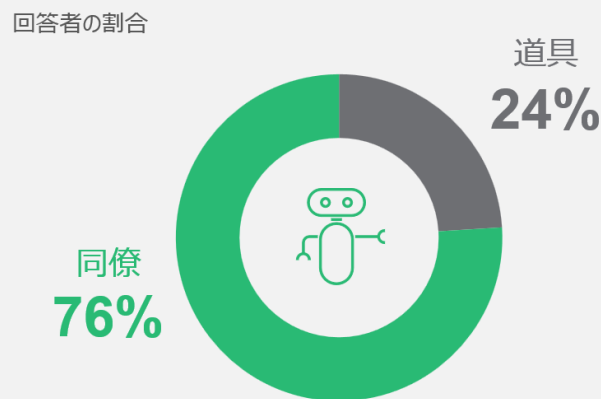
出所: MITスローン・マネジメント・レビュー誌とボストン コンサルティング グループの共同レポート「The Emerging Agentic Enterprise: How Leaders Must Navigate a New Age of AI」
(2025年11月)、BCG分析
© Boston Consulting Group 2025 - All Rights Reserved.

レポートでは、この急速な導入の背景には AI ツールのベンダーが自社製品にエージェント機能を組み込む形で提供している動きがあり、企業は戦略や体制を整える前に AI エージェントを実装している状況だと指摘しています。

76%が AI エージェントは道具より同僚に近いと回答

AI エージェントは従来のテクノロジーとは異なり、単なる道具や指示待ちのアシスタントではありません。複数の工程を自ら実行し、状況に合わせて学習・適応できる「自律的なチームメイト」として振る舞います。調査では、回答者の 76%が仕事において AI エージェントを「道具よりも同僚に近い存在」と認識していることがわかりました(図表 2)。

図表2 AIエージェントは道具より同僚に近いと回答した割合は76%



出所: MITスローン・マネジメント・レビュー誌とボストン コンサルティング グループの共同レポート「The Emerging Agentic Enterprise: How Leaders Must Navigate a New Age of AI」(2025年11月)、BCG分析

© Boston Consulting Group 2025 - All Rights Reserved.

調査では、ほかにも以下のような結果が得られました。

- AI エージェントを先進的に導入している企業(以下、先進企業)の 66%が「今後自社の業務体制に変化が生じる」と予測している(AI エージェントの導入予定がない企業では 42%)
- 58%の先進企業が「今後 3 年以内に自社のガバナンス構造に変化が生じる」と予測している
- 43%の先進企業が「スペシャリスト採用よりジェネラリスト採用を重視するようになる」と回答
- 45%の先進企業が「中間管理職層の削減」を、29%が「新入社員向けの職種の減少」を見込んでいる
- 先進企業で働く従業員の 95%が「AI の導入が仕事への満足度に良い影響を与えている」と回答
- 73%の先進企業が「AI エージェントの活用によって組織としての競争優位性が高まる」と回答(AI エージェントの導入予定がない企業では 53%)
- 先進企業の従業員の 76%が「AI エージェントを使うことで、同僚との差別化にもつながる」と回答(AI エージェントの導入予定がない企業では 49%)

AI エージェントは、道具であり同僚でもあるというこれまでにない二面的な性質を持ち、企業は資産管理と人材管理の両方の観点から AI を管理するという新たな課題に直面しています。レポートでは上記のような結果を基に、この課題への対処法を提示しています。

本レポートの共著者で、BCGのAIビジネスを率いるロサンゼルス・オフィスのマネージング・ディレクター&シニア・パートナーShervin Khodabandehは次のようにコメントしています。「AI エージェントには、既存のビジネスのプロセスを根本から変える力があります。成功する組織は、単に既存のプロセスにAIを当てはめるのではなく、プロセスそのものを再構築する努力を惜しまない企業です」

■ 調査レポート

「[The Emerging Agentic Enterprise: How Leaders Must Navigate a New Age of AI](#)」

■ 調査概要

AIとビジネス戦略に関するグローバル共同調査

- **調査方法:** 世界 116 カ国 21 業界の企業・組織に属する 2,102 名へのアンケート調査、および企業で AI に関わる取り組みを主導する経営幹部 11 名へのインタビュー
- **実施時期:** 2025 年春

■ 日本における担当者

中川 正洋 マネージング・ディレクター & パートナー



日本における生成 AI トピックのリーダー。BCG X、BCG パブリックセクターグループ、およびテクノロジー&デジタルアドバンテッジグループのコアメンバー。
早稲田大学理工学部卒業。同大学大学院理工学研究科修了。グローバルコンサルティングファームなどを経て現在に至る。

■ ボストン コンサルティング グループ (BCG) について

BCG は、ビジネスや社会のリーダーとともに戦略課題の解決や成長機会の実現に取り組んでいます。BCG は 1963 年に戦略コンサルティングのパイオニアとして創設されました。今日私たちは、クライアントとの緊密な協働を通じてすべてのステークホルダーに利益をもたらすことをめざす変革アプローチにより、組織力の向上、持続的な競争優位性構築、社会への貢献を後押ししています。

BCG のグローバルで多様性に富むチームは、産業や経営トピックに関する深い専門知識と、現状を問い直し企業変革を促進するためのさまざまな洞察を基にクライアントを支援しています。最先端のマネジメントコンサルティング、テクノロジーとデザイン、デジタルベンチャーなどの機能によりソリューションを提供します。経営トップから現場に至るまで、BCG ならではの協働を通じ、組織に大きなインパクトを生み出すとともにより良き社会をつくるお手伝いをしています。

日本では、1966 年に世界第 2 の拠点として東京に、2003 年に名古屋、2020 年に大阪、京都、2022 年には福岡にオフィスを設立しました。

<https://www.bcg.com/ja-jp/>

■ MIT スローン・マネジメント・レビュー誌 (MIT SMR) について

MIT Sloan Management Review's Big Ideas Initiatives develop innovative, original research on the issues transforming our fast-changing business environment. We conduct global surveys and in-depth interviews with front-line leaders working at a range of companies, from Silicon Valley startups to multinational organizations, to deepen our understanding of changing paradigms and their influence on how people work and lead.

■ 本件に関するお問い合わせ

ボストン コンサルティング グループ マーケティング 中崎・中林・河西
Tel: 03-6387-7000 / Fax: 03-6387-0333 / Mail: press.relations@bcg.com